

報告 2019年1月31日 京都府への質問・要望書提出に関する報告

京都府内の中間貯蔵施設設置について、

反対の姿勢は変わりなく今後も変更はないとの表明を求めて

京都府の回答「知事は、昨年6月の府議会で、前知事と同じ考えだと答弁している」

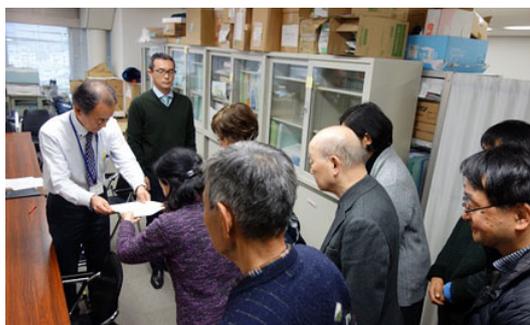
府内設置に反対する姿勢は一貫して変わらない、

——— 宮津市、舞鶴市を問わず、置かないことを確認

1月31日（木）、京都府府民生活部原子力防災課で、「京都府内の使用済み核燃料中間貯蔵施設設置について、反対の姿勢は変わりなく今後も変更はないとの表明を求める質問・要望書」を、避難計画を案ずる関西連絡会と京都の原発防災を考える会の連名で提出しました。11時から30分の予定でしたが、回答が明快であったため約20分間で終わりました。

参加者は京都府から4名、大阪府から4名の計8名でした。原子力防災課で対応したのは、桑谷課長、古橋副課長の2名でした。

昨年12月に関電が福井県知事に対し、使用済み核燃料中間貯蔵の福井県外候補地を2018年末までに示すとしていた約束を反故にした件で、1月25日に避難関西と福井県内3団体が、全国272団体の賛同とともに、福井県に対して若狭の原発を止めるように要望しました。その際に福井県は「(約束違反は)遺憾」「2020年を念頭に中間貯蔵の県外候補地を示すように求めている」と回答しました。このことから、今回の申し入れは、京都府知事に、前府知事と変わらない中間貯蔵施設受け入れ反対の表明を求めたものです。



最初に質問・要望書を読み上げ、桑谷課長に手渡し、回答を聞き、質疑応答をしました。

質問事項・要望事項は次の通り。

○質問事項：

1. 京都府として、使用済核燃料の中間貯蔵施設が京都府内に設置されることに反対している姿勢に、変更はありませんか？
2. 宮津市、舞鶴市を問わず、府内に使用済核燃料中間貯蔵施設を設置することには反対ですか？
3. 京都府として使用済核燃料中間貯蔵施設を府内に設置することに反対する姿勢はどのように表明しますか？

○要望事項：

京都府内に使用済核燃料中間貯蔵施設を設置することに反対する姿勢に変わりはなく、今後もその姿勢に変更はないと表明してください

◆「京都府は使用済み核燃料の中間貯蔵施設候補地になる考えはない」という前知事と同じ考えである（2018年6月京都府議会で西脇知事の答弁）

桑谷課長の回答は（山田前知事からの）反対の姿勢に変更はありませんという明快なものでした。

昨年 2018 年 4 月に京都府知事は、山田啓二知事から西脇隆俊知事に替わりましたが、その後の 6 月 27 日京都府議会において、議員からの質問に対して西脇知事は下記のような回答をしているとのことです。これは京都府議会の議事録にあり、ホームページにも公開されています。

「中間貯蔵施設につきましては、山田前知事が関西電力の前社長に対しまして『京都府は使用済み核燃料の中間貯蔵施設候補地になる考えはない』と断言し、前社長も『地元の同意なくして立地はあり得ない』と明言しております。私自身も同じ考えでございます」。

<http://asp.db-search.com/kyoto/> (2018.06.27 平成 30 年 6 月定例会 (第 3 号) 本文の発言 31 番)

桑谷課長は、「この議会答弁が今の知事の正式な意見表明であり、(前知事から)一貫して変わらない。議事録にもなっており、すでに表明しているのだから、改めて意見表明する必要はないと考えている」と述べました。宮津市、舞鶴市を問わず、府内設置に反対かを問う質問事項 2 についても、姿勢は変わりないと回答。

市民側は、昨年 6 月議会で知事がすでに表明していたことは全く知らず、大変驚きました。

これにより、京都府も依然として受け入れ拒否姿勢であることが確認できました。既に和歌山県白浜町長が使用済み燃料貯蔵施設受け入れを拒否し、青森県むつ市長も使用済み燃料貯蔵施設への関電使用済み燃料受け入れを拒否しています。

◆京都府の原発事故放射能拡散シミュレーションは、今年度内に終わるが、公表の仕方は未定

残りの時間で、京都府の原発事故の放射能拡散シミュレーションの進捗状況などについて質問し要望しました。回答概要は以下の通り。

今年度に予算が上がっている事業なので、今年度内には結果を出したい。

計算には SPEEDI を使う予定でかなり時間がかかる。国は、SPEEDI は原発事故の避難に際しての使用はしないことになり、自治体の端末は引き上げられて今はないが、シミュレーション、事前の予測での使用は妨げないと言っている。

シミュレーションの前提となる条件については、京都府の原子力専門委員たちに、会議ではなく個別に資料を渡して相談しながら検討している。

シミュレーションは、単位時間当たり単位放出量 (1 時間あたり 1 ベクレル) で方向性を出す。

今回は予算が 700 万円と限られているので、海側に風が流れる場合は省いて、京都府に風が流れる気象条件の場合で行う。予算を取って委託計算に出しているのは単位当たりの計算だ。それがどういう方向へ飛んでいくかという計算をしている。具体的な条件を考えてそれに数量をかけて算出していくが、福島で放出された量などで行うかなどの条件については相談中だ。

実際の気象条件をあてはめて検証する予定だが、いろいろな方向に風が吹いた場合は、放射能濃度が薄まるので、ある程度一定方向に風が吹いた場合を考えている。高浜・大飯の同時発災の場合も含めて検討しており、避難計画に反映させる。

シミュレーションは今年度予算で行い、3 月 31 日までに終わるつもりだが、公表をどのようにしていくかは未定だ。

市民からは、福島原発事故並みの放出量でやって欲しいと要望しました。しかし、今後検討する、関係機関とも調整しながら決めると答えるのみでした。京都府が少ない放出量での計算を公表してしまうと、それが報道されて過小なイメージが流布される心配があります。これからも京都府の動きを監視し、福島原発事故並みの放出量で行うよう働きかけていく必要があります。

府政記者クラブで記者会見を行い、京都新聞と毎日新聞が参加。昨年6月議会での西脇知事の議会答弁については報道されていないので、このタイミングで改めて報道してほしいと訴えました。（京都新聞が翌日朝刊で報道してくれました。）会見後、記者からは、京都府内の市町村での安定ヨウ素剤配布が動き始めたことについての質問などもありました。

福井県外で中間貯蔵施設を受け入れるところはどこにもない状況です。原発敷地内乾式貯蔵施設が焦点になっていきそうだと感じました。

※避難計画を案ずる関西連絡会、京都の原発防災を考える会の質問・要望書

http://www.jca.apc.org/mihama/nuclear_waste/kyoto_pref_q_yobo190131.pdf

2019.2.9

避難計画を案ずる関西連絡会

京都の原発防災を考える会